

第1章

構想の目的と位置付け

- 1 目的
- 2 位置付け
- 3 構想策定の背景

第1章 構想の目的と位置付け

1 目的

「東京水道長期構想－STEPⅡ－」は、東京都の水道事業（以下「東京水道」という。）が将来にわたって、都民生活と首都東京を支える水道であり続けることを基本的な目標とし、その実現に向け、今後の進むべき方向を明らかにするものである。

2 位置付け

「東京水道長期構想－STEPⅡ－」は、「東京水道新世紀構想－STEP21－」に続く、新たな施設整備長期構想として、これからおおむね四半世紀の間に行っていく施策の方向を示した基本構想であり、今後の水道施設整備の指針となるものである。



朝霞浄水場

3 構想策定の背景

「東京水道新世紀構想－STEP21－」の策定後、おおむね10年が経過し、この間、水道事業を取り巻く社会状況は著しく変化している。

東京都水道局（以下「当局」という。）が実施したお客さま満足度調査によると、「水道水に対する不満の割合」は、平成11年度の43%から、平成15年度には半数を越えるまでに増大するなど、「安全でおいしい水」に対するニーズが一層高まっている。

一方、平成16年には新潟県中越地震が発生し、40市町村で13万戸の断水が発生するなど甚大な被害をもたらした。首都圏においても大規模な直下型地震の発生が懸念されており、平成17年9月に中央防災会議により首都直下地震対策大綱が策定され、危機管理への対応が強く求められるようになった。

また、高度経済成長期に集中的に整備した膨大な施設の更新が今後顕在化するとともに



に、2007 年問題と言われる経験豊富な職員の大量退職が目前に迫っている。

更に、平成 17 年 2 月には、京都議定書の発効により、温室効果ガスの具体的な削減目標が設定され、水道事業についても環境問題への取組が重要な課題となっている。

加えて、平成 18 年 8 月、2016 年のオリンピック国内立候補都市が東京に決定したところであり、東京でのオリンピック開催を目指し、成熟した都市にふさわしい、安全で活力のある都民生活を実現するため、東京水道の整備水準をより高いものとしていくことが求められている。

当局では、これらの状況を踏まえ、引き続き効率的な経営に配慮しつつ、お客さまのニーズに対応した一層の給水サービス水準の向上、環境保全への貢献など幅広い視点を取り入れた新たな長期構想を策定することとした。



東京都庁

